前期ウィトゲンシュタイン「論理哲学論考」について

大阪哲学道場資料 2012.12.9

「論考」の世界観は、私の言語の意味を確定させ得るとし、私の言語と世界が完全に一致し得るとし、そして、その上で、私の世界こそが現実であるとする、極限的で独我論的な世界観である。

語りえない4つのこと

1. 要素命題に有限回の論理操作を施すことによって可能な思考のすべてが得られる。この範囲から外れる内容については、語りえない。
2. モノがいかにあるかは語りえるが、それが何であるかは語りえない。
3. 論理や倫理など、言語の前提となる設定は語りえない。
4. 世界の限界としての私は語りえない。

【世界】 事実の総体。実際に起こっていることがらをすべて集めたもの。

【事実】 現実に成立していることがら。

【事態】 起こりうることがら。事実に対して成立していない可能性の部分まで含めて考えられるもの。

【対象】 事実や事態を分析して得られる、世界を構成する要素。

【 像 】 事実の写像。人間が世界を理解するためには、その射影を整理棚のようなものにあてはめて分析する必要がある。この、理解可能な形に処理された射影を像という。特に「論理」という整理棚にあてはめた像を「論理像」という。すべての像は論理像でなければならない。

【形式】 カントが、時間空間やカテゴリーなどの形式によって世界が理解可能になるとしたのと、同じ意味で使われていると考えてよい。世界を理解可能な像に射影するための整理棚の様式のこと。ただし、ウィトゲンシュタインの考える形式は、時間空間やカテゴリーなどにとらわれず、様々なものを設定しうる。そして、それらすべての形式において「論理」が基礎となり、「論理」を含まない形式は無いとする。

【論理空間】 あることがらが起こりうるかどうかの論理的可能性の総体。

【思考】 事実の論理像。単に事実の像だけでなく、事実の像を真理操作によって分解合成してできる事態の像、さらに、その事態の真理可能性を組み合わせた内容についても、思考と呼んでいる。

【命題】 世界と射影関係にある表現。思考の表現。

【 名 】 命題の構成要素。命題は名だけからできている。名は対象を指示する。ただし、命題の構成要素のすべてなのだから、一般的な「名」という言葉の「ものの名前」という意味とはずいぶん違う。ものの名前を指すだけでなく、形容詞や動詞などの、様子を表す言葉や、ものの関係性を表す言葉も「名」に含まれる。

【Bedeutung と Sinn】 Bedeutung はそれが指示する対象、指示対象。Sinn はその対象を規定する仕方、意義。名は Bedeutung を持つが、Sinn を持たない。命題は Sinn を持つが、Bedeutung を持たない。

【言語】 命題の総体。

命題の一般形式$[\bar{p}, \bar{\xi}, N(\bar{\xi})]$

- $[\bar{p}, \bar{\xi}, N(\bar{\xi})]$この式で、「$\bar{p}$」は要素命題の集合を示し、「$\bar{\xi}$」は必要なものを適当に選んだ命題の集合を示し、「$N(\bar{\xi})$」はそれらの命題を否定し「かつ」で結ぶという真理操作を示す。
- 否定語「ない」は「名」ではない。
- 「選言∧（･）」「連言∨」「条件→（⊃）」「同値≡」「存在∃」「全称∀」などの論理語は、「否定¬（～）」を組み合わせた操作でしかなく、世界の対象を表すものではない。
- 世界の要素命題がT（タイガースが勝った）の１つだけのとき、Tに対応する真理可能性は２通り。(2^1＝2)
  T // 真｜偽｜
  この世界の中の命題がTの真理可能性と一致するかしないかの可能性は、次の４通り。

①Tが真でも偽でも、真。	(タイガースが勝ったのならタイガースが勝った)
②Tが真のとき真で、偽のとき偽。	(タイガースが勝った)
③Tが偽のとき真で、真のとき偽。	(タイガースは勝っていない)
④Tが真でも偽でも、偽。	(タイガースが勝ったのなら、タイガースは勝っていない)

  この世界で、この世界を表現するすべての命題は、この４通りのうちのいずれかと一致する。だから、この世界を示す命題はこの4つしかないと言える。これがこの世界の全言語。
- 世界の要素命題がT（タイガースが勝った）とG（ガンバが勝った）の2つだけのとき、TとGに対応する真理可能性は4種類。(2^2=4)

	1	2	3	4
T	○	○	×	×
G	○	×	○	×

このとき命題は 16 通りできて、これがこの世界の全言語である。→

T	○	○	×	×	要素命題がTとGのただ2つのとき
G	○	×	○	×	
①	○	○	○	○	トートロジー　(T→T)∧(G→G)
②	○	○	○	×	TかG　T∨G
③	○	○	×	○	GならばT　G→T
④	○	×	○	○	TならばG　T→G
⑤	×	○	○	○	(TかつG)ではない　¬(T∧G)
⑥	○	○	×	×	T
⑦	○	×	○	×	G
⑧	○	×	×	○	TならGで、GならT　T≡G
⑨	×	○	○	×	TかGかのいずれか　(T∧¬G)∨(G∧¬T)
⑩	×	○	×	○	Gではない　¬G
⑪	×	×	○	○	Tではない　¬T
⑫	○	×	×	×	TでG　T∧G
⑬	×	○	×	×	Tであって、Gではない　T∧¬G
⑭	×	×	○	×	Gであって、Tではない　G∧¬T
⑮	×	×	×	○	TでもGでもない　¬T∧¬G
⑯	×	×	×	×	矛盾　(T→¬T)∧(G→¬G)

- 世界の要素命題が3つのとき、全命題は 2^(2^3)=256 で、256 通りのみである。
- 世界の要素命題が4つのとき、全命題は 2^(2^4)=65536 で、65536 通りのみである。
- 世界の要素命題が 6 つのとき、全命題は 2^(2^6) で、18446744073709551616 通りのみである。
- 世界の要素命題が n 個なら、全命題は 2ˆ(2ˆn) 通りだけしかなく、それがすべてになる。

現実のようすから思考可能な範囲を確定するための、5 つの手順

①　現実世界のすべての出来事を文にして記述する。
②　文を分解して、「名」を採取する。
③　「名」を最小限に組み合わせて、互いに独立な命題（要素命題）を作る。
④　要素命題を組み合わせて、世界に起こりえるすべての事態を記述する。
⑤　世界に起こりえるすべての事態について、それが起こるか起こらないかのパターンを組み合わせて構成できる命題のすべてを書き出し、思考可能な範囲を確定する。

【世界1】

①　「AとBがある」という一文で表し尽くされてしまうような世界があったとする。

②　「AとBがある」を分解して、次の3つの「名」が取れる。

「A」、「B」、「ある」

③　「名」を組み合わせて、次の2つの要素命題ができる。

a)「Aがある」 b)「Bがある」

④　2つの要素命題それぞれについて真か偽かを選んで、全パターンの文を作り出すと、2^2=4 で4通りの事態が考えられる。

ア)「AもBもある」 イ)「AがあってBがない」 ウ)「AがなくてBがある」 エ)「AもBもない」

⑤　成立可能な4つの事態について、さらに、それぞれが起こるか起こらないかのパターンを組み合わせてできる命題を書き出すと、2^(2^2)=16 で 16 通りの命題が得られる。これが、思考可能な範囲のすべてになる。

1. 「AがあるならAがあり、BがあるならBがある」―トートロジー
2. 「AかBがある」
3. 「AがあるならBもある」
4. 「BがあるならAもある」
5. 「AもBもあるということはない」
6. 「Aがある」
7. 「Bがある」
8. 「AがあるならBがあり、BがあるならAがある」
9. 「AかBかのどちらか一方だけがある」
10. 「Aはない」
11. 「Bはない」
12. 「AもBもある」
13. 「AはあるけどBはない」
14. 「BはあるけどAはない」
15. 「AもBもない」
16. 「AがあるならAはなく、BがあるならBはない」―矛盾

【世界2】

① 「テーブルの上に青いカップがある」という一文で言い尽くされてしまうような世界があったとする。

② 固有名（x、y）を仮に導入し「テーブルxの上に青いカップyがある」とし、これを分解して「名」を取る。次の7つの「名」が取れる。

「テーブル」「の上に」「青い」「カップ」「ある」「x」「y」

③ 次の8つの要素命題が得られる。

a)「xはカップとしてある」	e)「xは青い」
b)「yはカップとしてある」	f)「yは青い」
c)「xはテーブルとしてある」	g)「xはyの上に位置する」
d)「yはテーブルとしてある」	h)「yはxの上に位置する」

④ ８つの要素命題それぞれについて真か偽かを選んで、全パターンの文を作り出すと、2^8=256 で 256 通りの事態が考えられるはずである。しかし、上の要素命題には完全に独立でなかった部分があったので「ｘはカップであり、かつ、テーブルである」や「ｘはｙの上にあって、かつ、ｙはｘの上にある」などの不明な文や実現不可能な文もできてしまう。また「ｘ」と「ｙ」はそれ自体では判別不可能な仮の固有名なので「カップｘがある」と「カップｙがある」は判別不能な文になってしまう。そこで、これらを整理すると、256 通りのうち、かなりの部分が排除され、残る可能な事態は次の 31 パターンになる。

ア）「青いカップが青いカップの上にある」	チ）「青いカップと机がある」
イ）「青いカップがカップの上にある」	ツ）「カップと青い机がある」
ウ）「カップが青いカップの上にある」	テ）「カップと机がある」
エ）「カップがカップの上にある」	ト）「青い机が青い机の上にある」
オ）「青いカップと青いカップがある」	ナ）「青い机が机の上にある」
カ）「青いカップとカップがある」	ニ）「机が青い机の上にある」
キ）「カップとカップがある」	ヌ）「机が机の上にある」
ク）「青いカップが青い机の上にある」	ネ）「青い机と青い机がある」
ケ）「青いカップが机の上にある」	ノ）「青い机と机がある」
コ）「カップが青い机の上にある」	ハ）「机と机がある」
サ）「カップが机の上にある」	ヒ）「青いカップがある」
シ）「青い机が青いカップの上にある」	フ）「カップがある」
ス）「青い机がカップの上にある」	ヘ）「青い机がある」
セ）「机が青いカップの上にある」	ホ）「机がある」
ソ）「机がカップの上にある」	マ）「何もない」
タ）「青いカップと青い机がある」	

この 31 パターンが、この世界で起こりえる事態のすべてである。

⑤ 成立可能な 31 つの事態について、さらに、それぞれが起こるか起こらないかのパターンを組み合わせてできる命題を書き出すと、2^31=21474836482 で 21474836482 通りの命題が得られる。これが、思考可能な範囲のすべてになる。